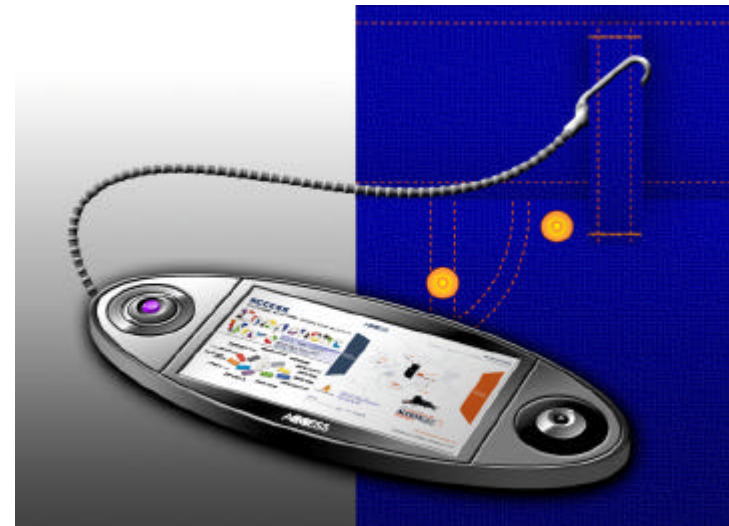


ACCESS決算説明会

平成14年1月期 決算説明会

株式会社ACCESS
代表取締役 荒川 亨
2002年3月22日



目次

1. 国内本業における高収益体制の確立へ
向けた取り組み
2. 海外展開の具体的施策と今後の展望
3. 周辺事業の推進状況
4. 今後の技術開発の方向性

プレゼンテーションのポイント

- 単体は、第3四半期以降、営業利益および経常利益で黒字を達成
- 投資有価証券の評価減により、事業の選択と集中を一層明確化
- 売上構成におけるロイヤリティー比率は40%台をキープ、製品売上における粗利率も40%以上をキープし、本業における国内基盤が固まった
- 海外キャリアに対する製品供給も開始し、今後徐々に拡大予定
- 周辺事業と本業とのシナジーが具体的な形で現れ始め、今後着実に推進する体制が期待される

1. 国内本業における高収益体制の確立へ 向けた取り組み

ネット家電のソフトウェア構造

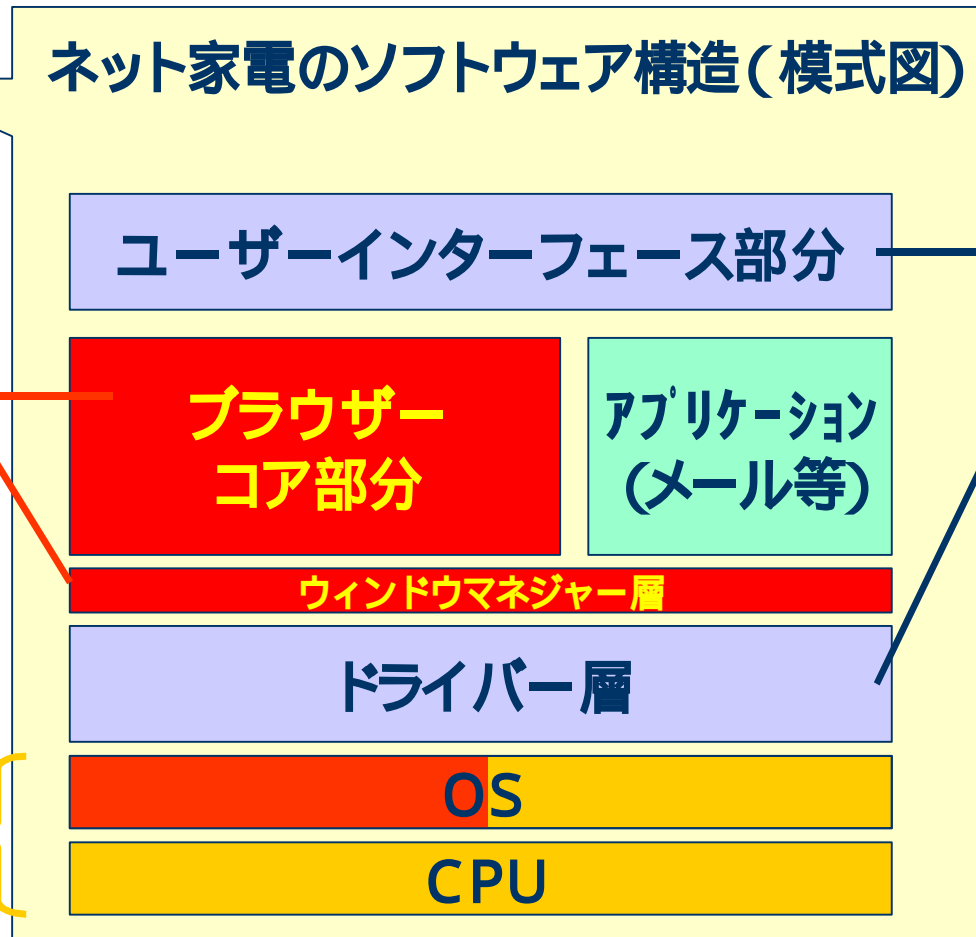


ネット家電のソフトウェア構造(模式図)

ACCESS
研究開発室
担当部分
||
どの製品でも
変わらない部分

主に
ベンダーが
提供する部分
(OSについては、
ACCESSが提供する
ケースあり)

ACCESS



ACCESS
プロダクツ
開発本部
担当部分

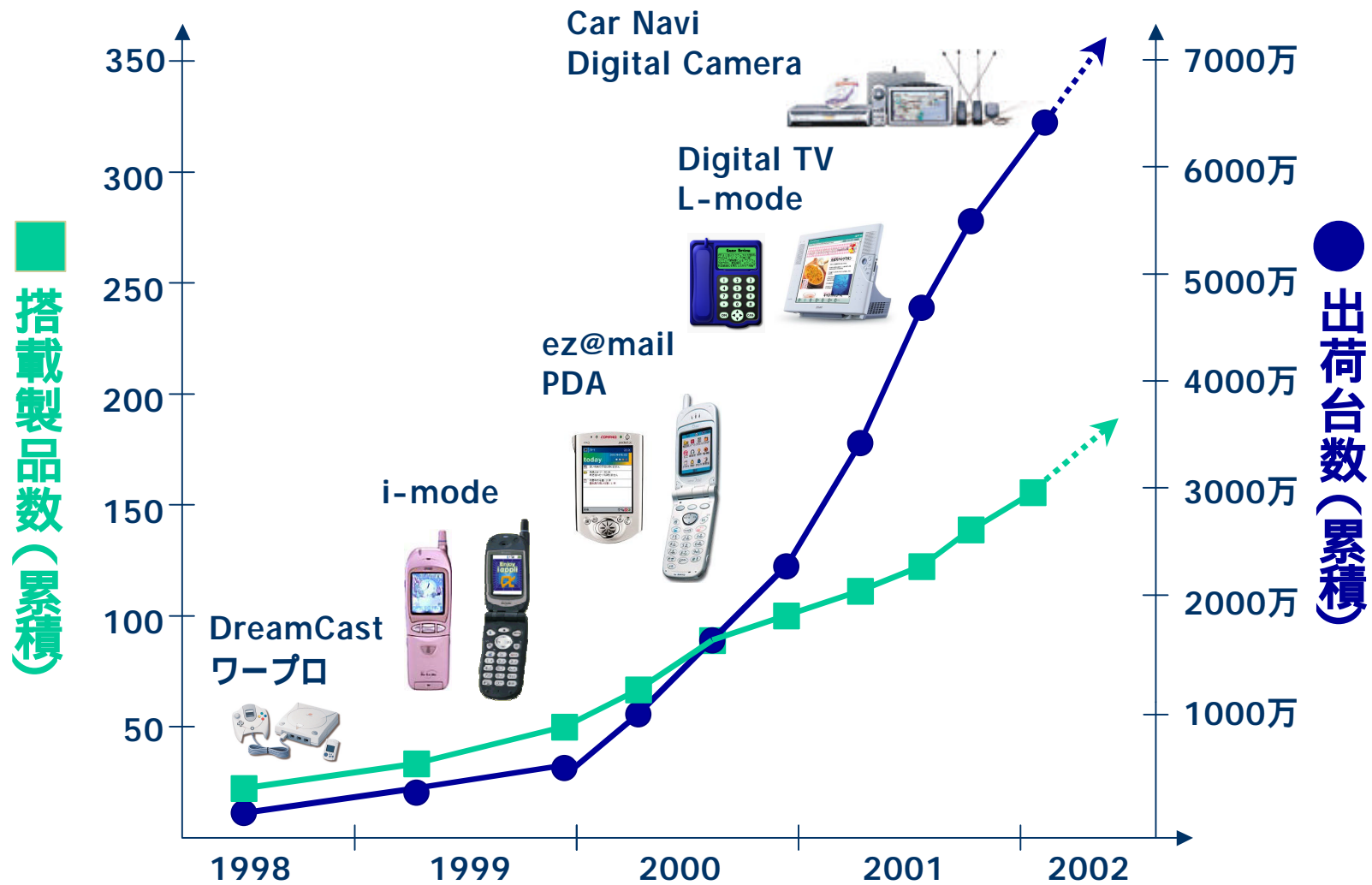
||
各製品ごとの
合わせ込みが
必要な部分



SDK*化して
外部リソースを
活用

*SDK=Software
Development
Kit

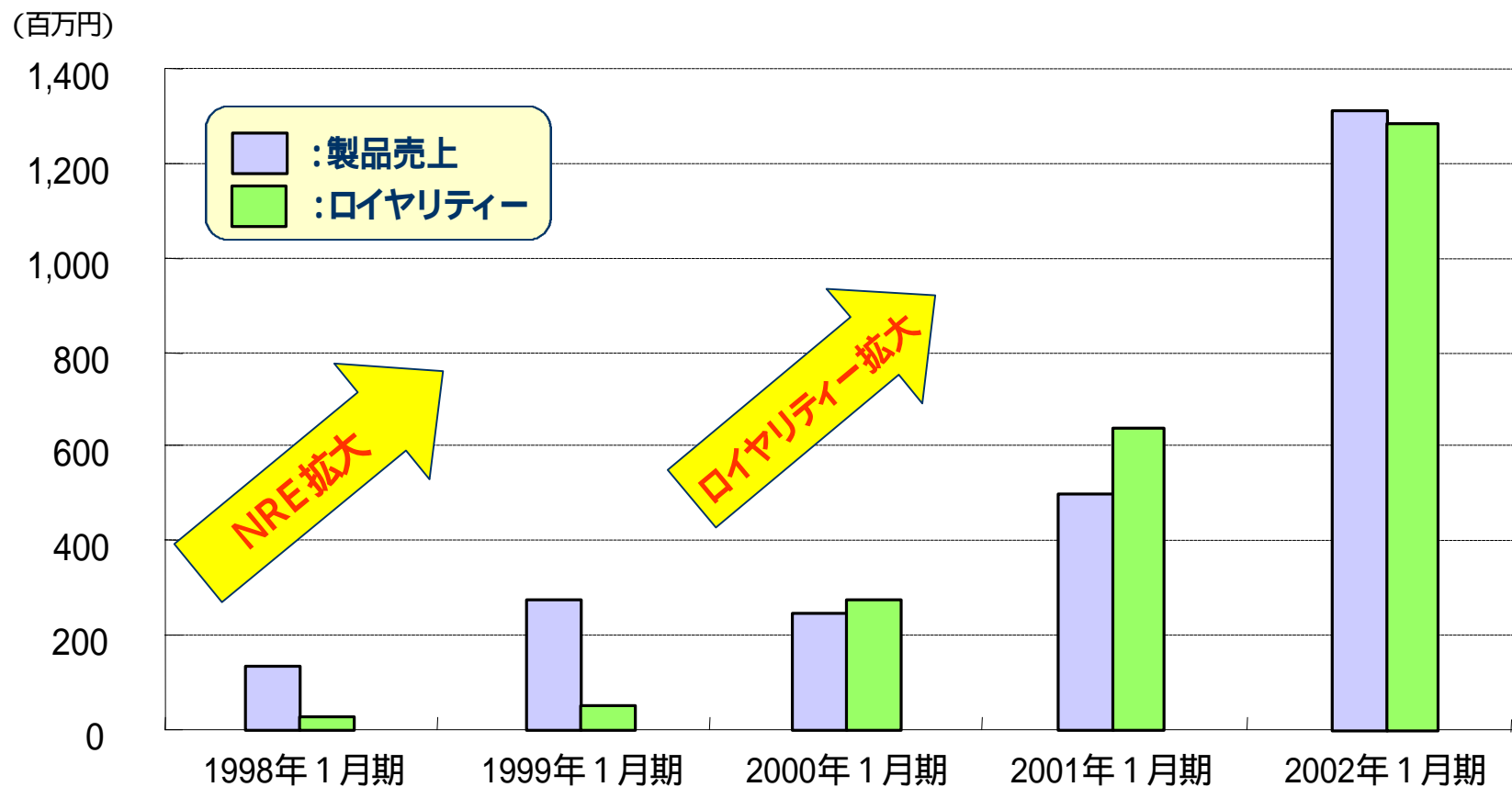
ACCESS 搭載製品・出荷台数



ACCESS

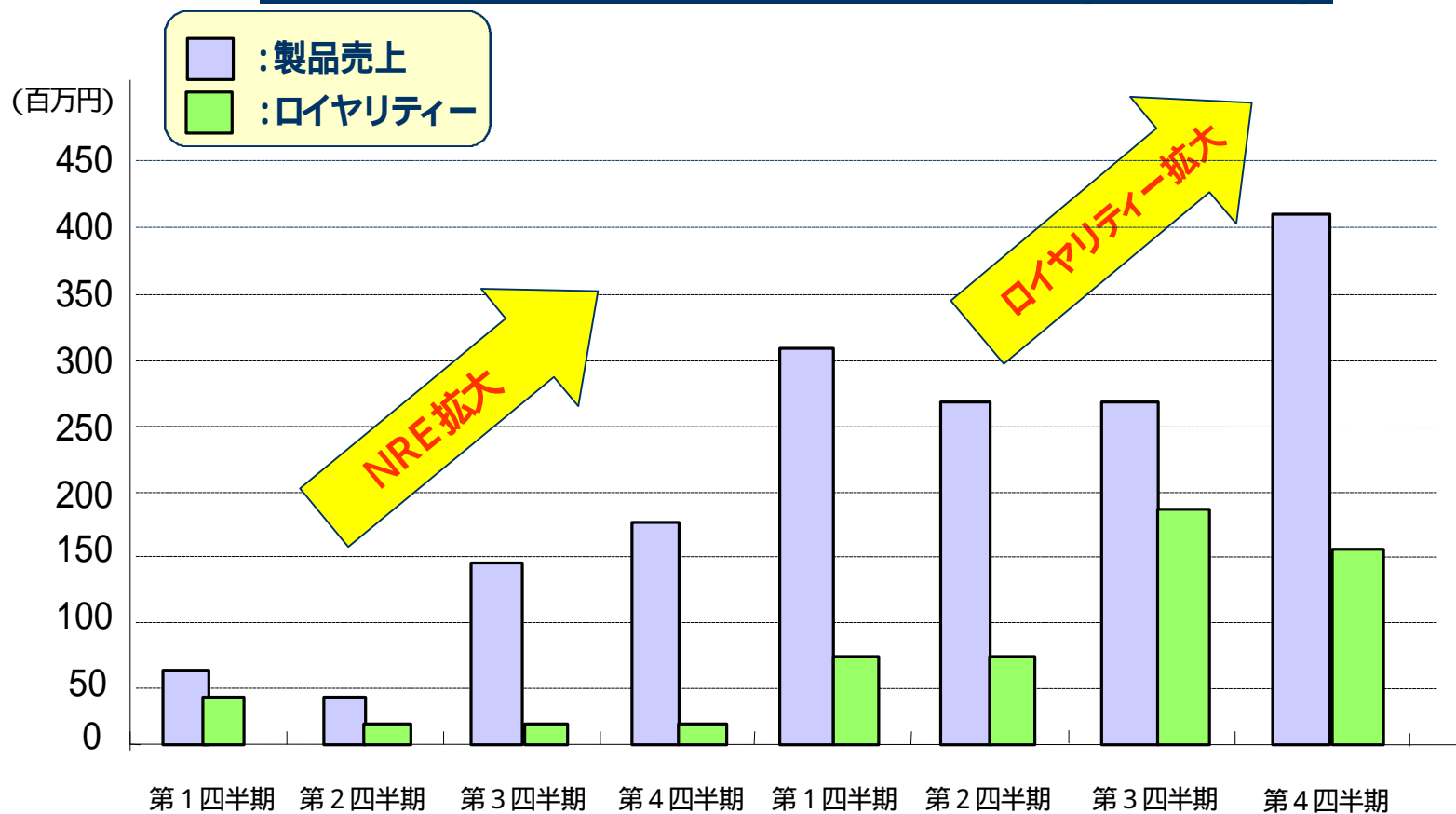
売上推移の傾向(1/2)

例: 移動体情報端末の売上推移(年度別)



売上推移の傾向(2/2)

例: 固定・屋内情報端末の売上推移(四半期別)



ACCESS

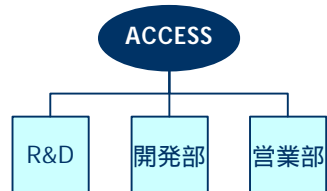
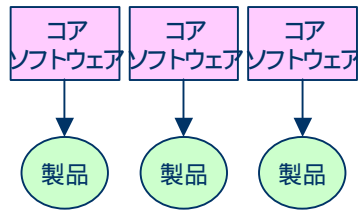
2000年1月期

2001年1月期

Copyright ©2002 ACCESS.CO.,LTD.

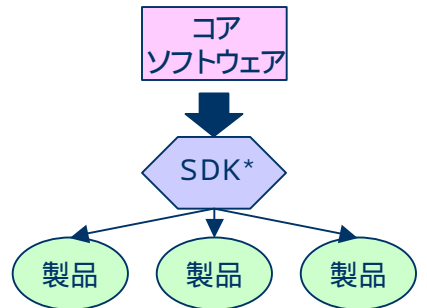
マ스プロダクション型組織への変遷

当初の体制

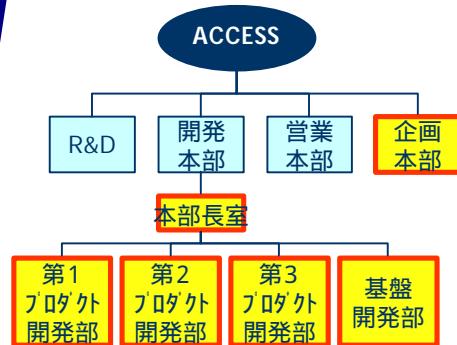


R&D: 4名
開発部: 30名

旧体制(～2001/1)

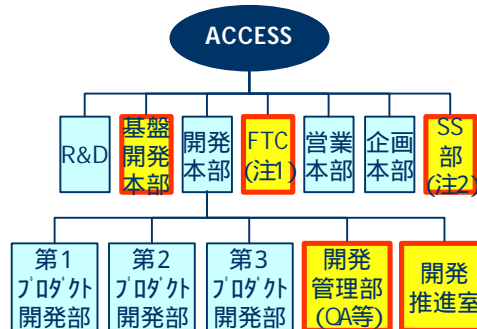
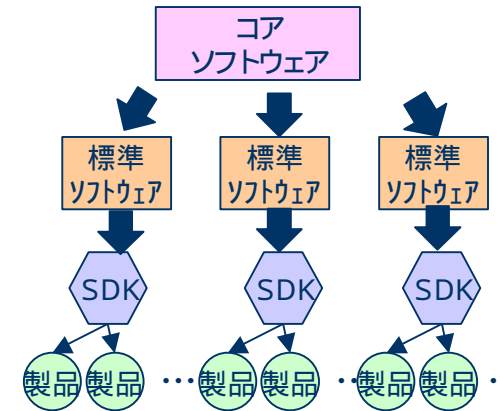


*SDK=Software Development Kit



R&D: 11名
開発本部: 65名
(うちプロダクト開発部: 29名)
(うち基盤開発部: 36名)

前期(～2002/1)



R&D: 17名
開発本部: 81名
基盤開発本部: 36名

今期の変更(2002/2～)

- グローバルに戦略立て、リソース・情報を共有していく機能を新設(グローバル事業推進室)
- 開発全体を管理・推進する機能を強化(開発推進部)
- 品質管理の責任を持つ新たな部署を設置(品質管理部)
- 社外・社内のコミュニケーションを一元管理する機能(CC室)

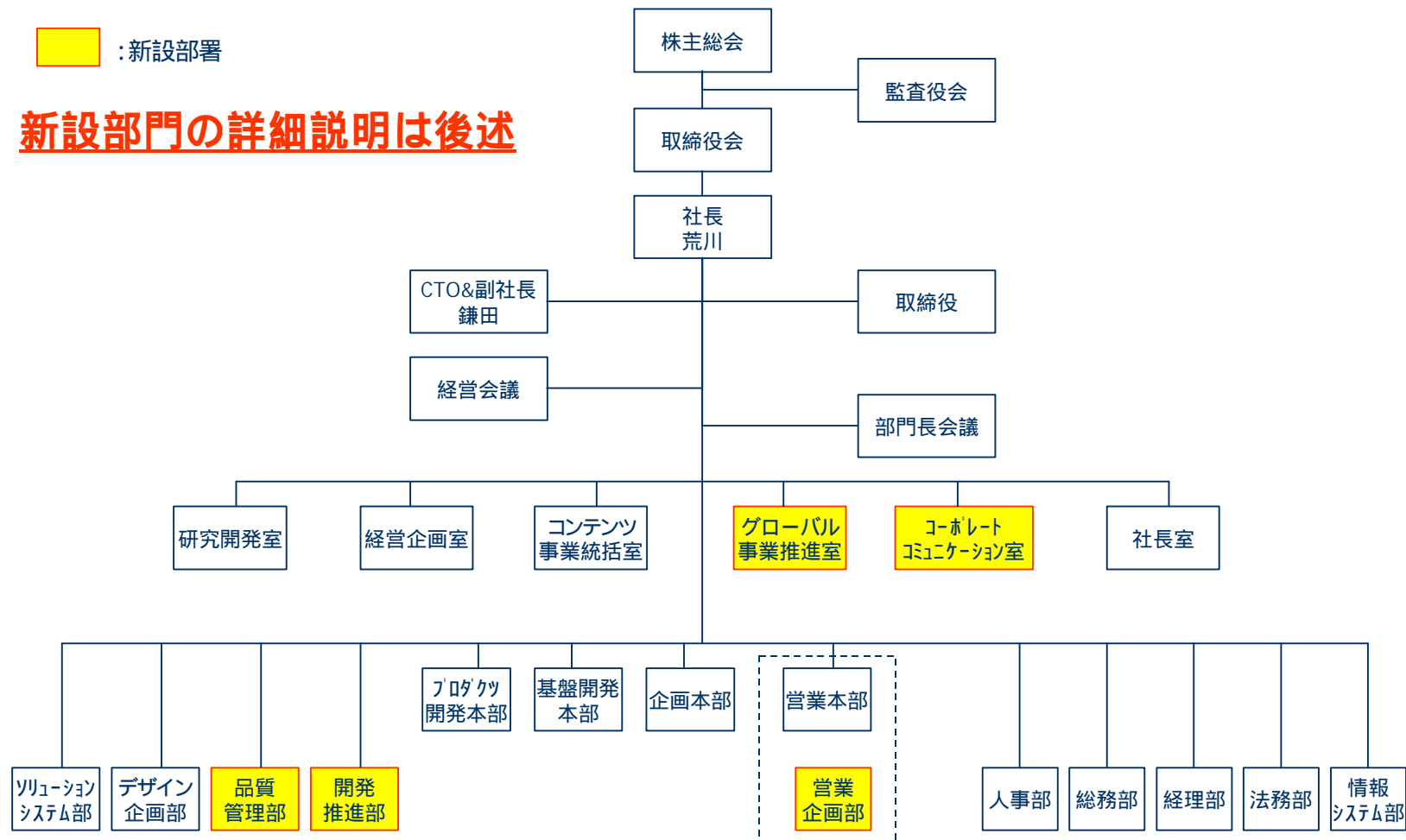
ACCESS

注1) FTC: Field Technical Center
注2) SS部: Solution System部

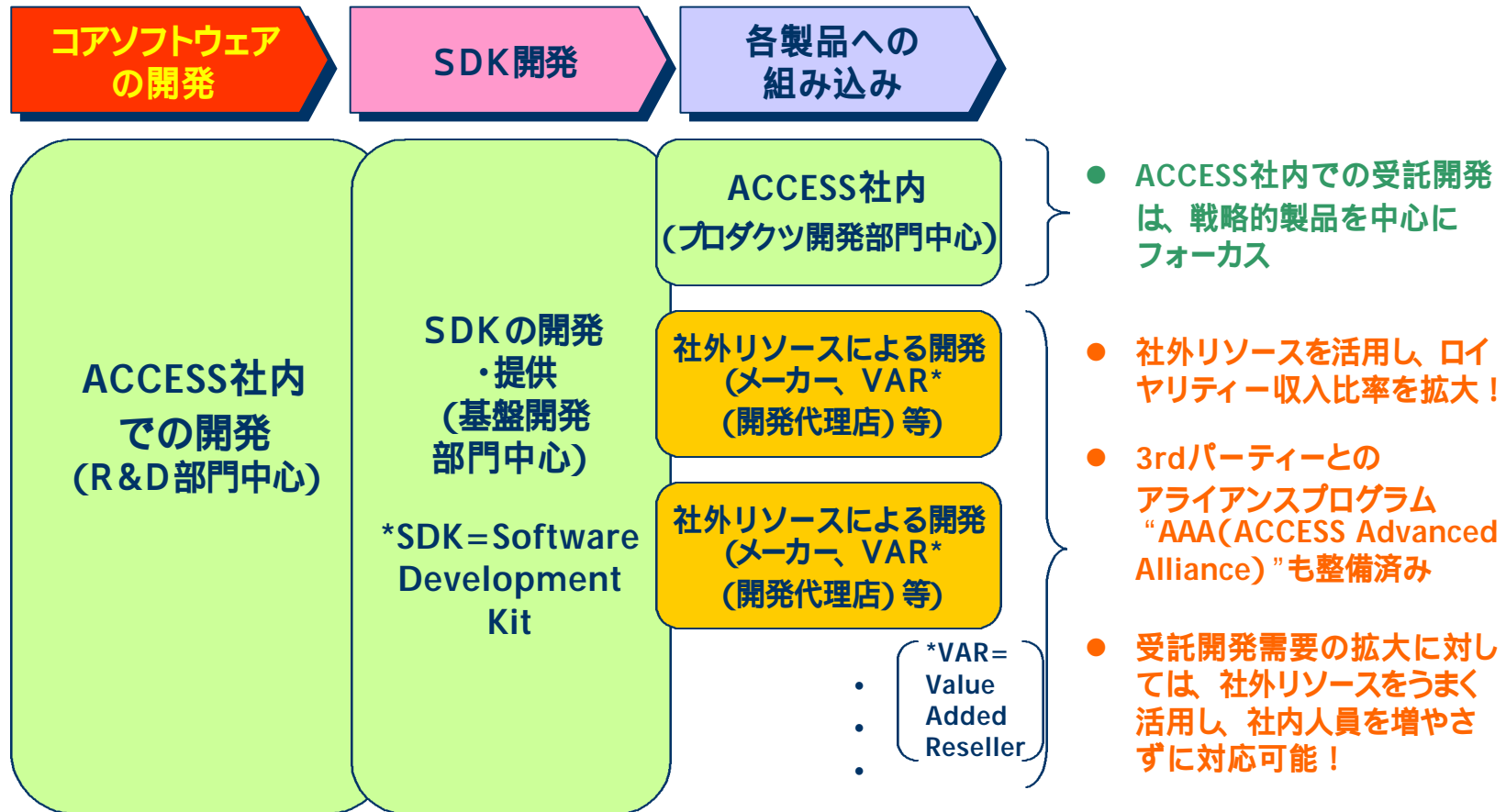
今期の体制(2002年2月～)

: 新設部署

新設部門の詳細説明は後述



マスプロダクション型の開発スタイルへ



SDKの提供によって、メーカー、VAR等においても、各製品へのソフトウェア組み込み作業を、より効率的に行なうことができる

VAR, OEMアライアンスパートナー

Authorized Distributor

アイティアアクセス株式会社
株式会社イーストンエレクトロニクス
NECマイクロシステム株式会社
兼松デバイス株式会社
東芝情報システム株式会社
Coventive Technologies
Microware Systems Corporation
PalmPalm Technology, Inc.

プログラム内容

・ACCESS製品を自社製品と組み合わせて、
または単独で販売およびサポートしていただく
パートナー

プログラムへの参加要項

・ACCESS所定のVAR/代理店契約、またはSI
契約を結んでいただく必要あり

Authorized System Integrator

株式会社メロン
株式会社テクニカル・マーケティング・リサーチ
株式会社日立マイクロソフトウェアシステムズ
株式会社富士通ビー・エス・シー

プログラム内容

・ACCESS製品のライセンスに対し、移植および
カスタマイズなどの受託開発ビジネスを独立
して行っていただくパートナー

プログラムへの参加要項

・ACCESSによるAuthorized System Integrator
としての認定
・専属エンジニアのアサイン
・トレーニングの受講
・ACCESS製品の、2件以上の量産プロジェクト実績

ACCESS

プロダクトカテゴリー拡大への対応



- インターネットTV
- ゲーム機
- PDA 等

プロダクトカテゴリーの
拡大に対応するために...



For i-mode



For CarNavi

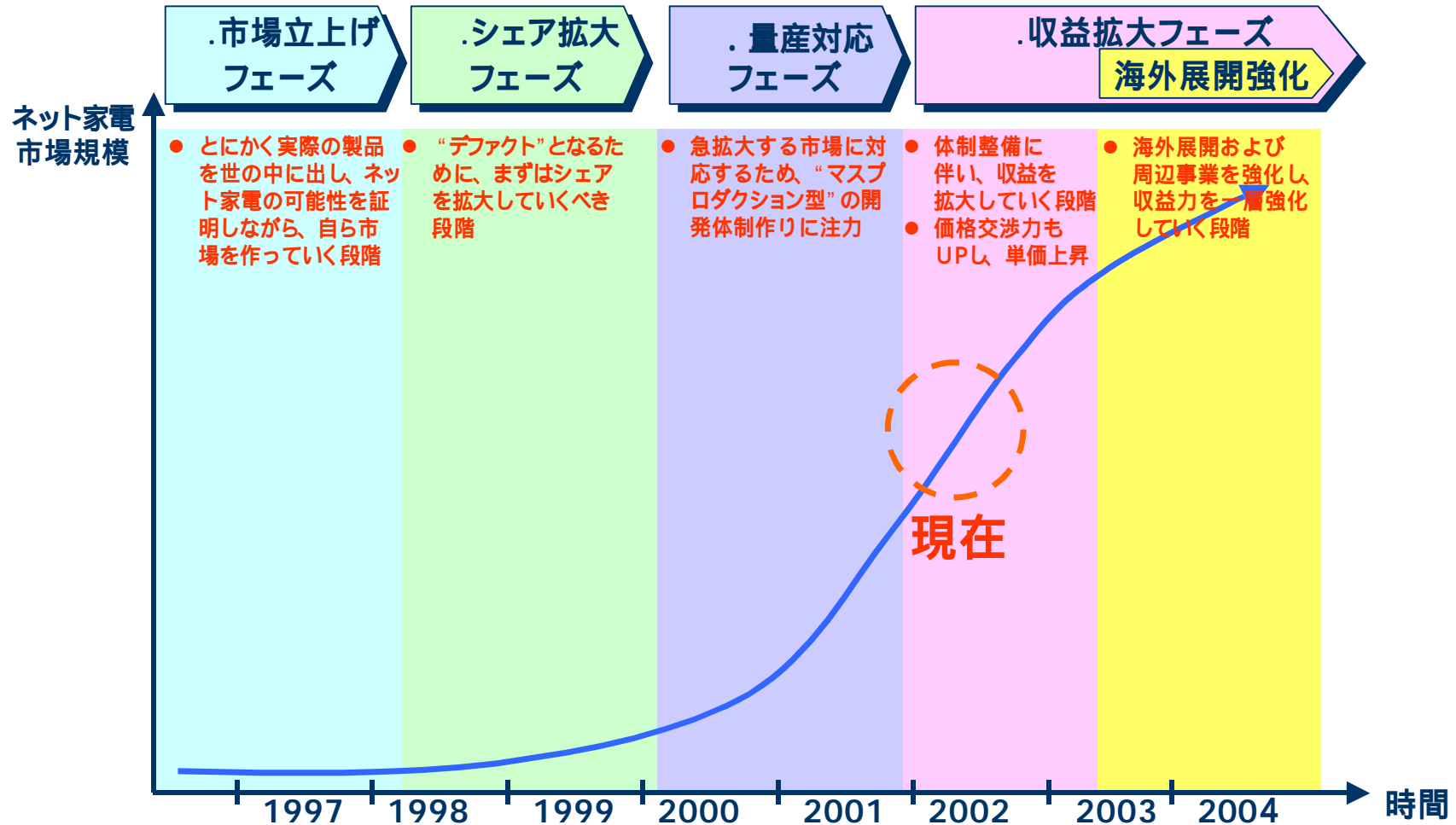


For L-mode



ACCESS

事業ステージの変遷



市場立上げフェーズ

- とにかく実際の製品を世の中に出し、ネット家電の可能性を証明しながら、自ら市場を作っていく段階

シェア拡大フェーズ

- “デファクト”となるために、まずはシェアを拡大していくべき段階

量産対応フェーズ

- 急拡大する市場に対応するため、“マスプロダクション型”の開発体制作り注力

収益拡大フェーズ

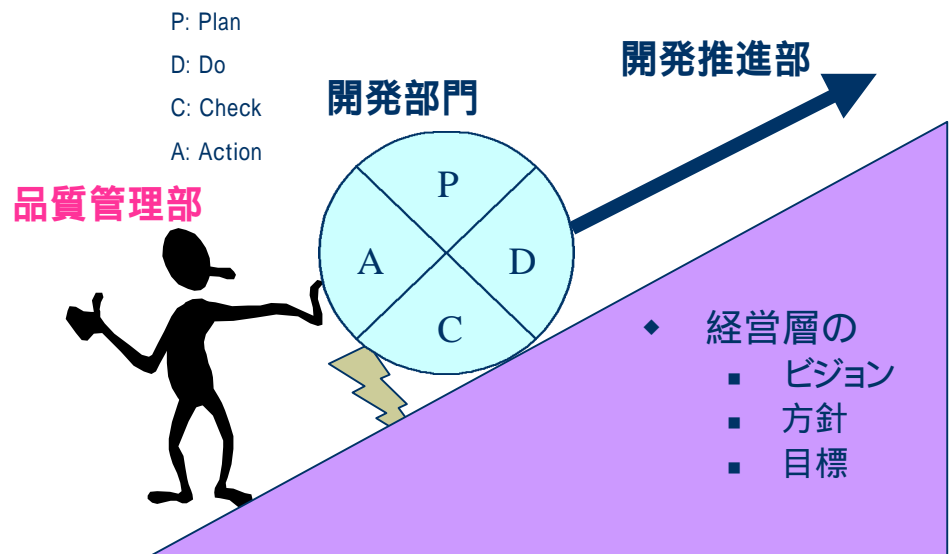
海外展開強化

- 体制整備に伴い、収益を拡大していく段階
- 価格交渉力もUPし、単価上昇
- 海外展開および周辺事業を強化し、収益力を一層強化していく段階

ACCESS

これまで準備してきた“マスプロダクション型”の開発体制を活かして、収益を拡大していく

品質管理部



- ◆ 顧客満足度の向上を目指し、自社の発展と共に協力会社や委託会社の将来的発展に寄与する
- ◆ 経営ビジョンや方針を実現するためツールの一つとなり経営戦略に寄与する

- ◆ 組織改善
 - 品質システムの構築
- ◆ 顧客対応への改善
 - 障害用(営業)窓口の一本化
- ◆ プロジェクト活動改善
 - QAによるプロジェクト・プロセス評価

2003年中の
ISO9000獲得を目標に
活動開始!

新たな家電市場での取り組み

カーナビ市場

- NetFront for Automotiveをカーナビ向けブラウザとしてリリース済み
- カーナビメーカー、および自動車メーカー各社と共同検討・共同開発推進中
- 2002年より、製品投入予定多数あり



固定電話市場

- 固定電話向け標準ブラウザを開発済み
- 各メーカーの端末向けに標準ブラウザをベースにカスタマイズ
- 国内市場シェアは100%
- 今後も各社から製品リリース有り



デジタルテレビ市場

- NetFront for DTV (BML + HTML) 開発済み
- NetFront v3.0ベースのDTV向け次世代ブラウザ開発中
- メーカー数社と次世代DTV開発推進中



PDA市場

- Palm EPOC向けのNetFront開発がほぼ完了
- NetFront v3.0をベースとしたPDA製品がメーカー各社より2002年には市場投入される予定



ブラウザ以外の製品展開

概要説明

用途(例)

TCP/IP、
Wireless TCP

AVE-TCP® v6

IPv6

AVE-TCP® v6

Bluetooth

AVE-Blue

IrDA

IrFront™

Java VM

**JV-Lite® 2
ACCESS**

- インターネット上でのデータ通信をつかさどる通信プロトコル(通信を行なうための“取り決め”)
- Wireless TCPは、途中で切断しやすい等の特徴をもつワイアレス通信に適した形にモディファイした仕様

- TCP/IPの一部をなすIPプロトコルの次世代版
- すべてのネット機器に一对一でアドレスをふるることにより、利便性を高めるなどのメリットがある

- 2.4Gヘルツの周波数帯を使った無線通信の仕様
- “近くにあれば自動的につながる”ため、利便性が高く、今後の普及期待される通信仕様

- 赤外線を利用した無線通信

- アプリケーションをダウンロードすることにより、アプリの追加が可能なアプリケーション実行環境
- SUNのJavaVMと完全互換なACCESSオリジナルのJava VM(クラスライブラリのみSUNからライセンス)

- パソコンのインターネット用通信から、携帯電話のポケット通信まで、インターネットに接続されるほとんど機器で使われている

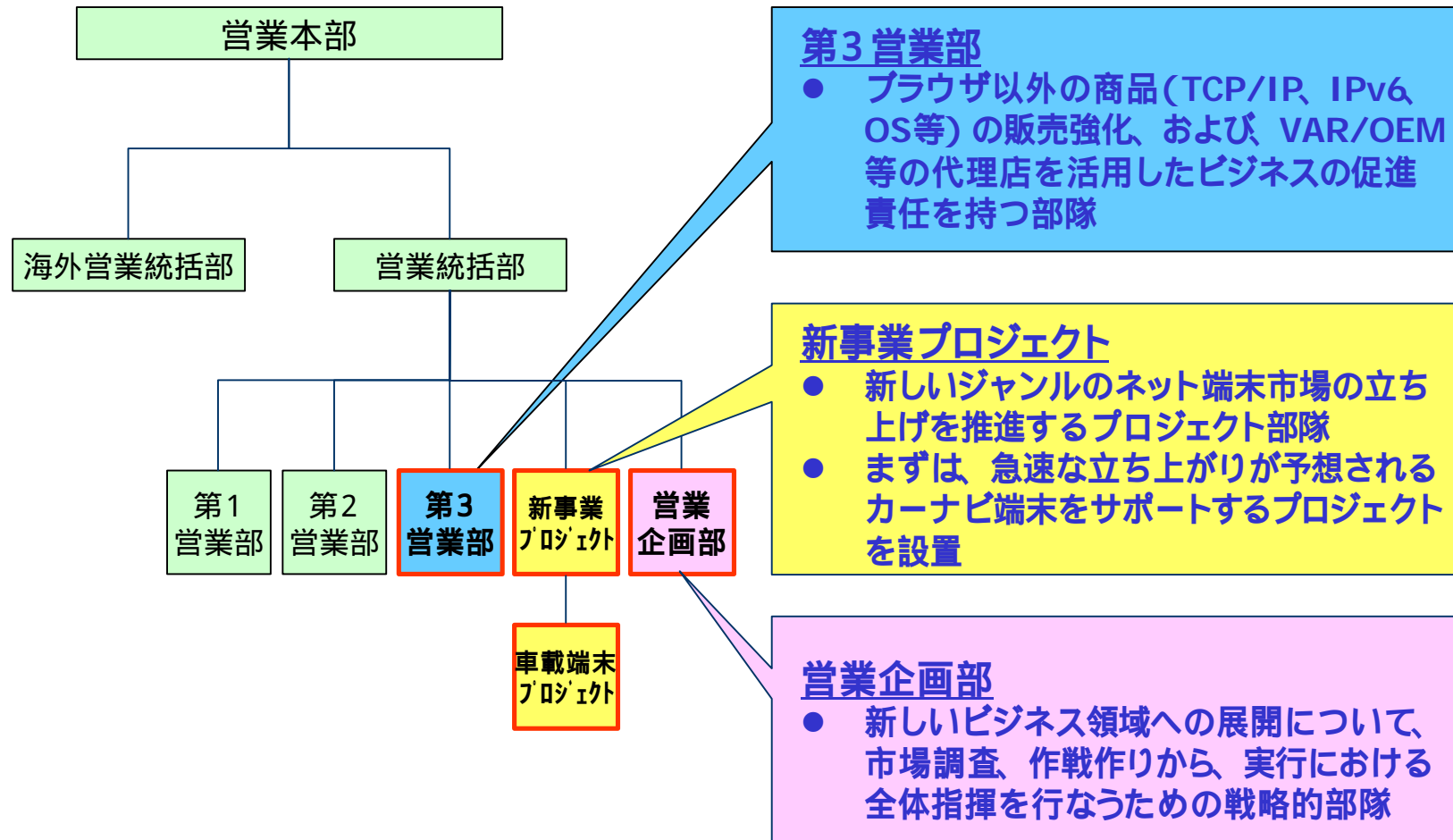
- 次世代携帯電話だけでなく、今後登場するすべてのネット家電への搭載が見込まれる

- 携帯電話を初め、家庭内のネット家電(TV、エアコン等)、および、自動販売機などありとあらゆる機器への搭載が見込まれる

- 各種リモコンや、携帯電話など、すでにさまざまな機器へ搭載されている

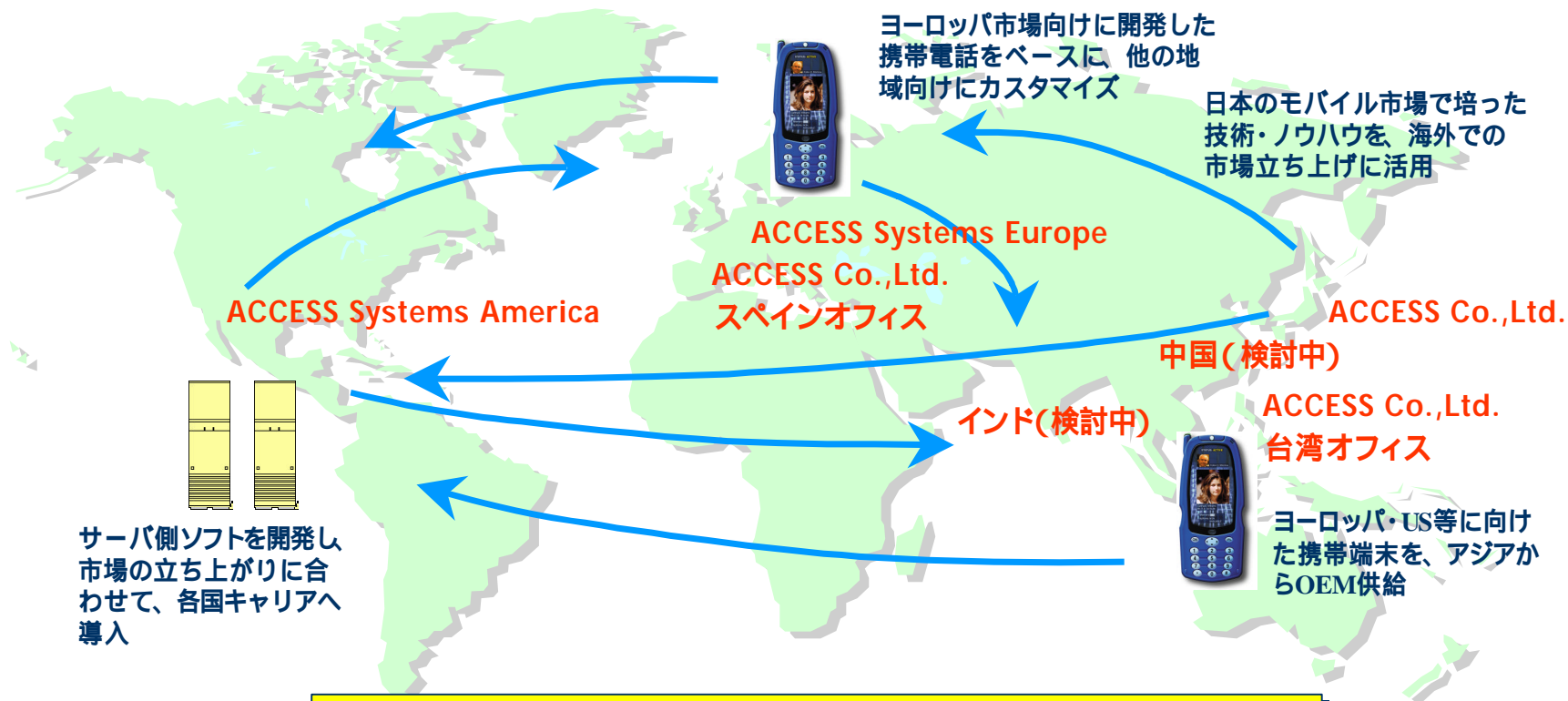
- 携帯電話には既に搭載されはじめており、今後もいろいろな家電への搭載が検討されている

国内新規市場開拓のための営業部隊強化



2. 海外展開の具体的施策と 今後の展望

グローバルなリソース共有が不可欠



グローバルにリソース(人・製品)や情報・ノウハウを共有していくことが必須
グローバル事業推進室の設立

ACCESS

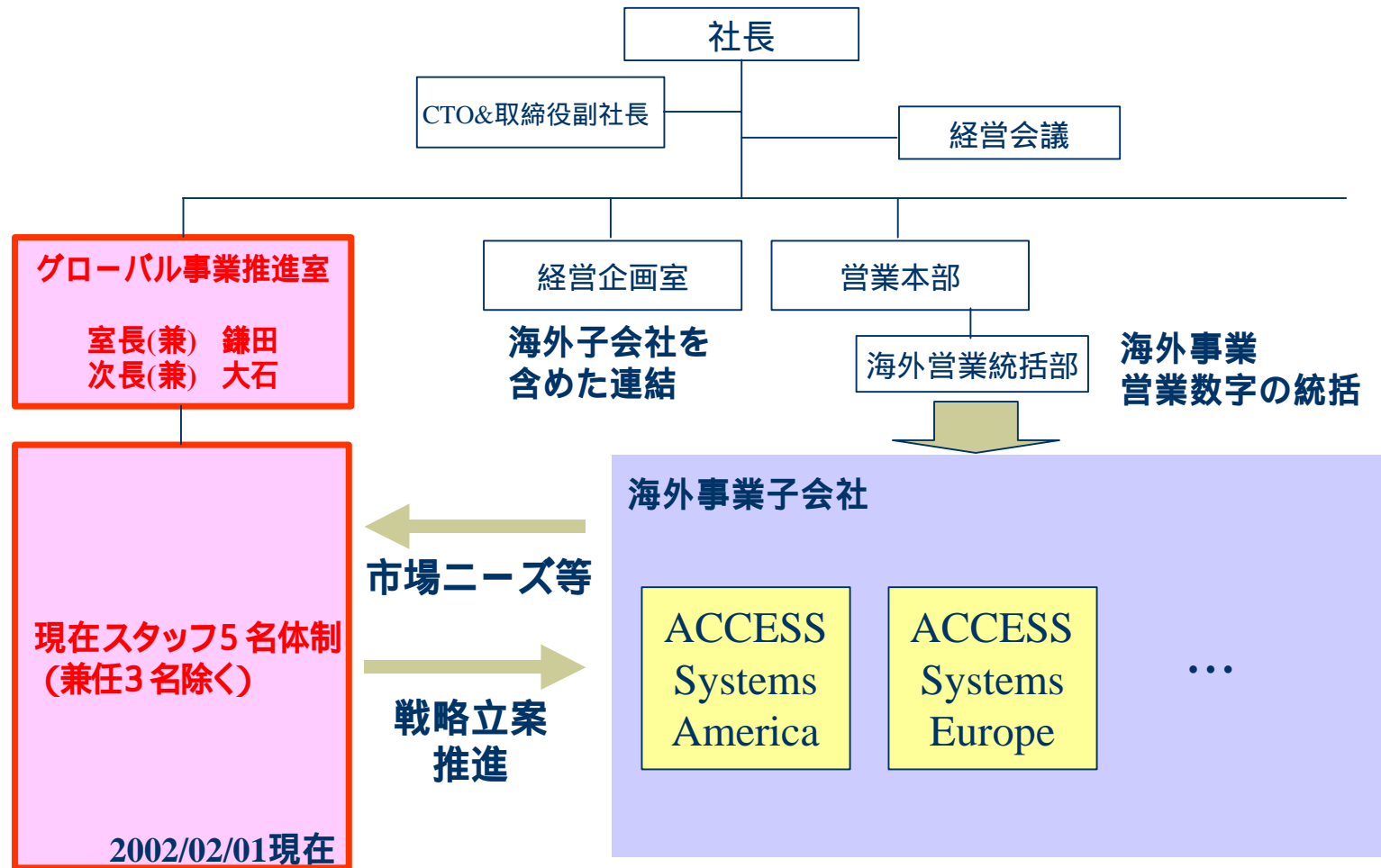
グローバル事業推進室の設立

- (1) 海外事業戦略 子会社を含めたグローバルな協力体制が必須
 - ASA 約35-40人 サーバ製品、コンサルなどノウハウ共有
 - ASE 約18-25人 2002年本格立ち上げ、黒字化
 - Taiwan Office 1人 黒字化のめどが立ち次第、法人化計画中
 - 中国、インドなど 市場参入調査中
- (2) 営業・マーケティング戦略(国内含む)
- (3) グローバルアライアンス戦略
- (4) 研究・開発のグローバルなリソース配分
- (5) 標準化提案戦略、知的財産・特許戦略

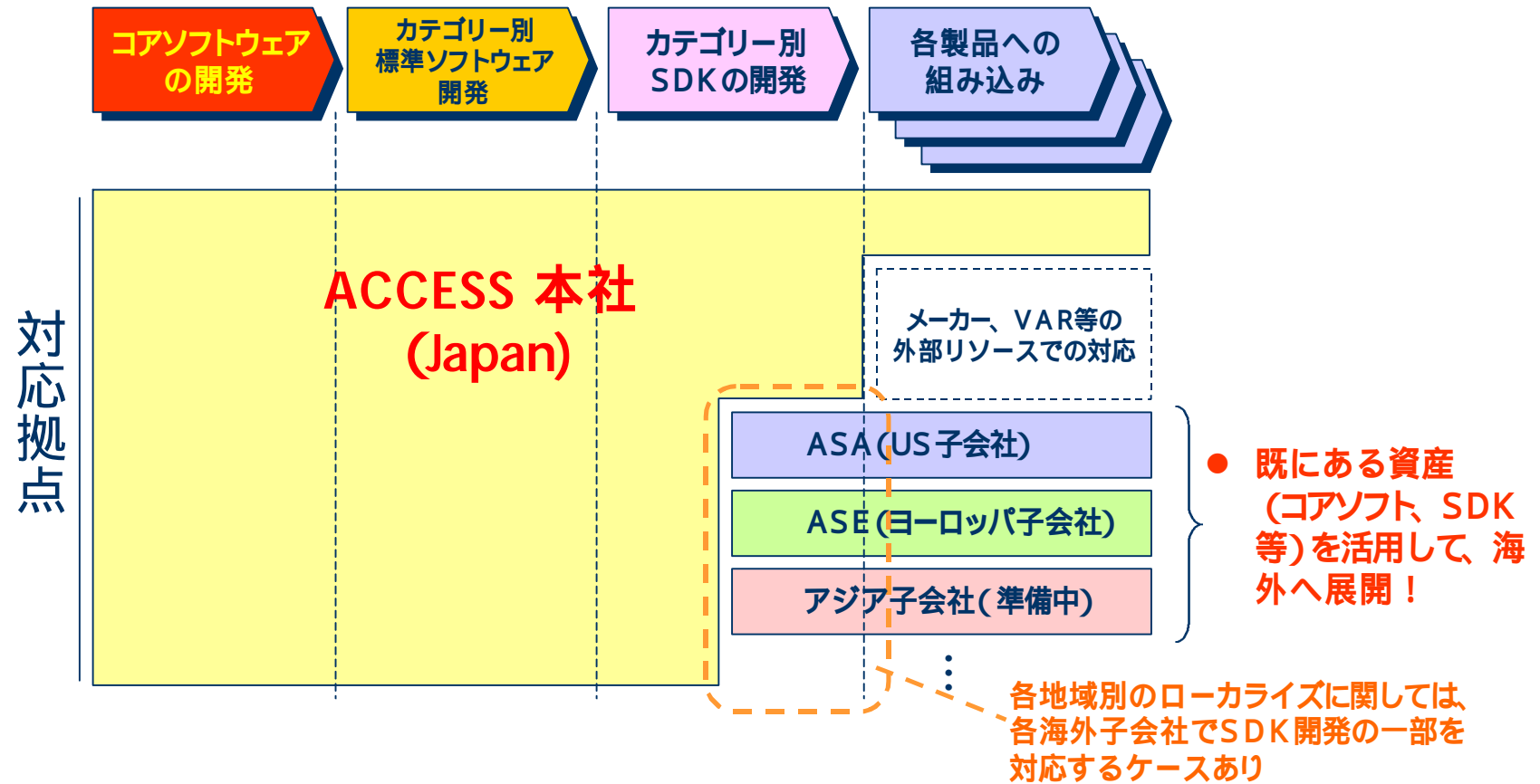


**戦略立案・推進をミッションとした新しい部隊の設置
グローバル事業推進室(CTO&EVP鎌田が室長)**

海外子会社との連携スキーム



海外子会社の位置付け



今まで準備してきた資産 (コアソフトウェア、カテゴリ別標準ソフトウェア、SDK等) をそのまま活用することによって、追加の研究開発投資なしでの海外展開が可能

海外キャリアの実情

日本

- キャリア主導で、端末の仕様を決定し、メーカーはそれに準じた端末を開発
- キャリアはメーカーから端末を買い上げ、ユーザーへ販売(従って、端末はキャリアブランド)
- ユーザー管理、課金・決済等を含めた、トータルシステムについても、キャリアがリーダーシップを取って構築



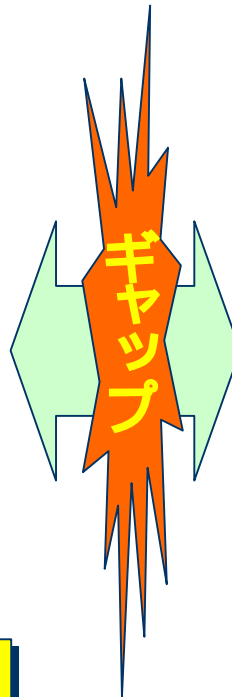
キャリア主導で
モバイルインターネットビジネスの
市場を構築できた

海外

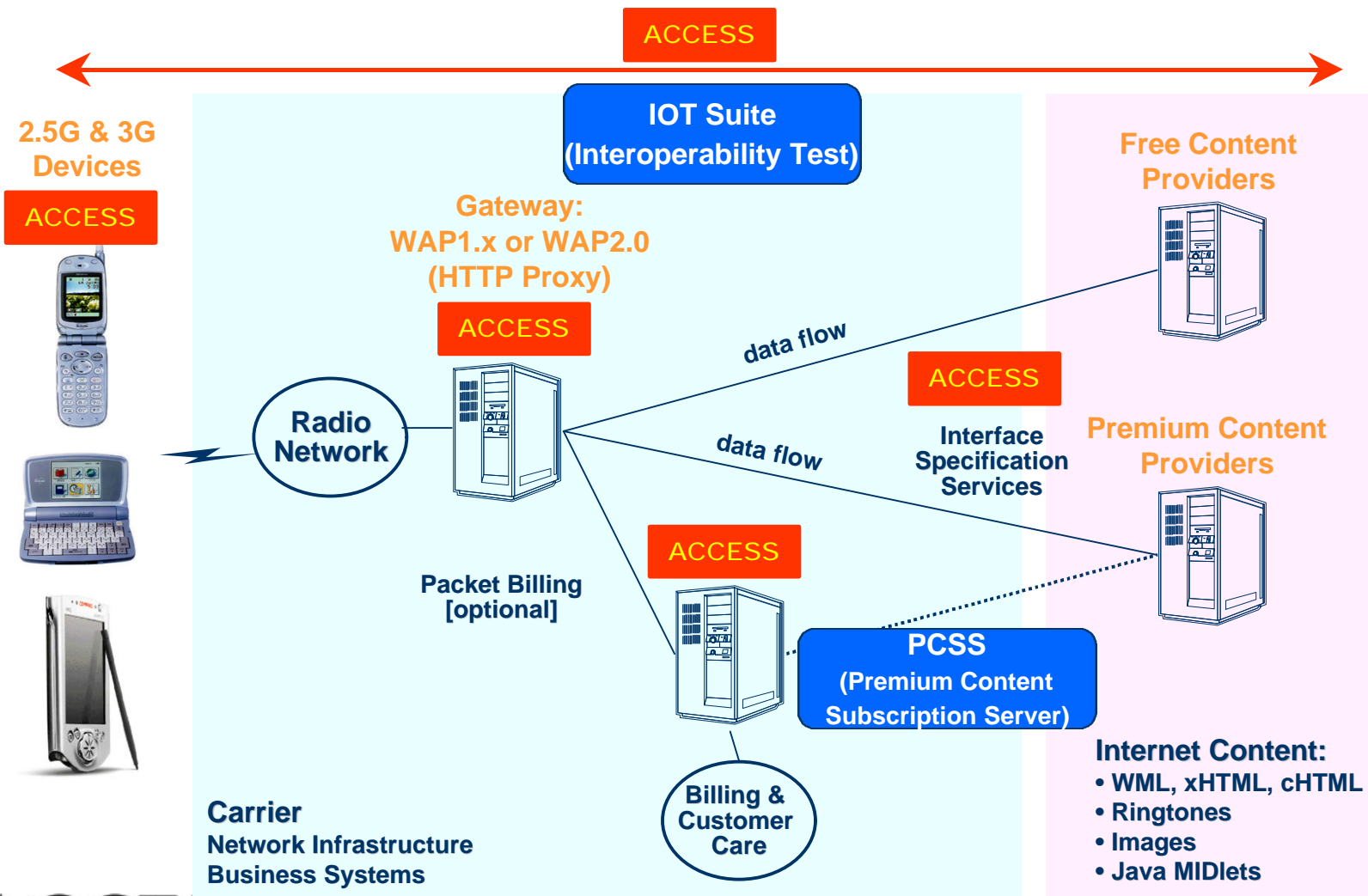
- 端末メーカーが、各自の仕様で端末を開発
- メーカーそれぞれが独自に、ユーザーへ直接端末を販売(従って、端末はメーカーブランド)
- サーバ側システムは、お抱えのSIベンダー任せで、キャリアにはスキル・ノウハウなし



キャリアには、モバイルインターネット
のようなトータルなサービス市場を
立ち上げる力がない

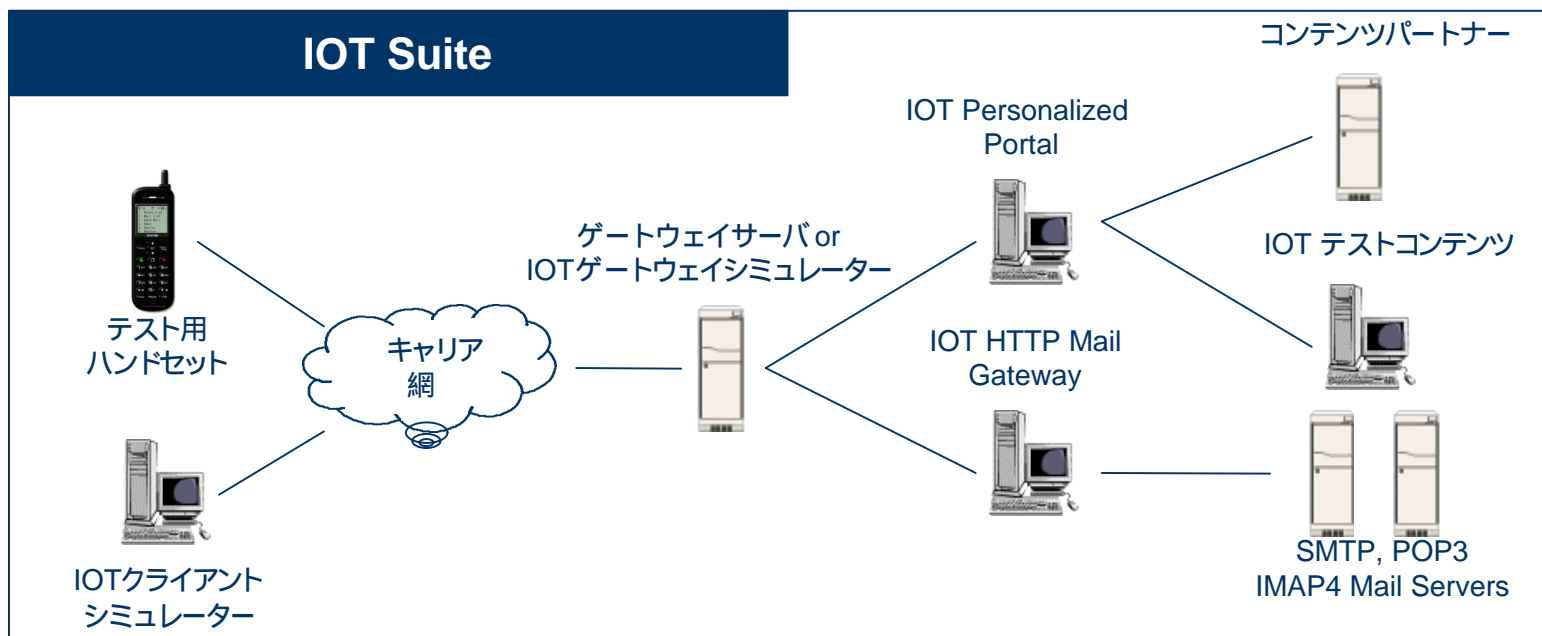


ACCESSのEnd-to-End ソリューション



ACCESS

IOT Suite



- ハンドセットのテスト
 - ブラウザ
 - メール

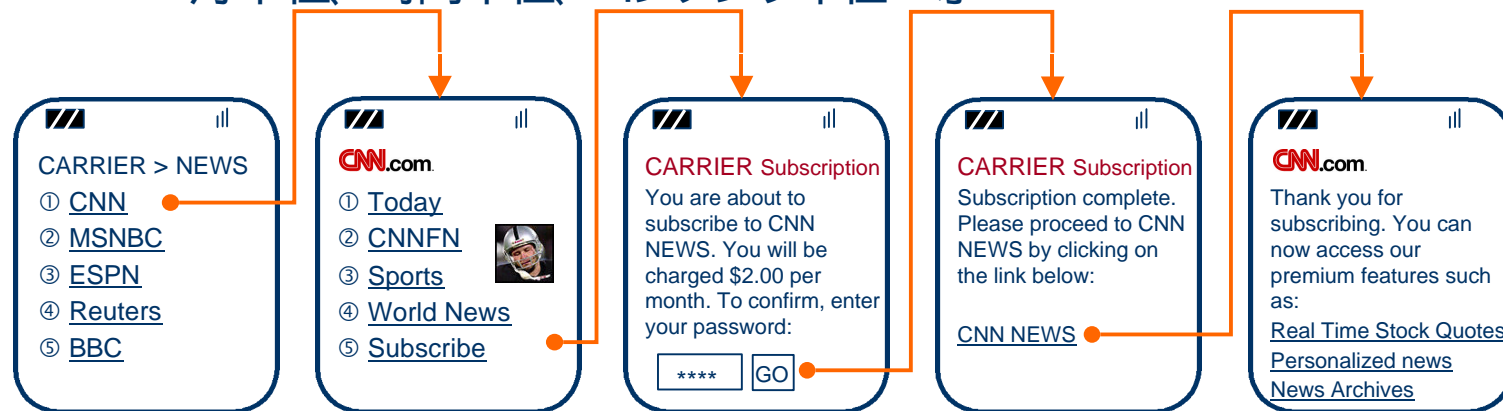
- キャリア網との接続テスト
- コンテンツポータルテスト

- コンテンツのテスト
- メールサーバのテスト

モバイルインターネット導入の検討段階において
非常に有効なテストスイートとして、キャリアに提供中

PCSS(Premium Content Subscription Sever)

- ◆ 有料コンテンツのMy Menu登録やダウンロードを管理
 - オペレータとコンテンツプロバイダー間のレベニューシェアも可能
- ◆ 複数のコンテンツタイプをサポート
 - グラフィック、アニメーション、着メロ、Java 等
- ◆ いろいろなコンテンツ購入パターンに対応
 - 月単位、時間単位、コンテンツ単位 等



キャリアの有料コンテンツサービス導入を含め
モバイルインターネットサービスを可能にする
End-to-End のサーバソリューションを提供
US子会社(ASA)にて、ほぼ開発完了

海外子会社の付加価値

海外現地における
組み込み開発拠点

+

海外キャリアへの
コンサルティング業務

+

サービインテグレーションを
含めたトータルソリューション提供



- ASA(US子会社)
2003年後半に黒字化目標
- ASE(ヨーロッパ子会社)
2002年中に黒字化目標

現在の推進状況サマリー

- ◆ 海外オペレータへのブラウザ提供開始
 - e-plus(ドイツ)のサービスイン(3月16日)を皮切りにKPNモバイルがi-modeサービス開始(オランダ、ベルギー)
 - その他4～5社が、2002年中にサービス開始
 - 検討中のオペレータも多数
- ◆ 台湾經濟部(政府機関)との提携により、台湾キャリア全体へのソフトウェア供給も含めた、包括的な関係を構築
- ◆ 北米、南米においても、キャリアとの共同プロジェクトが複数進行中(コンサルティング、サーバ・クライアントソフト等の提供)
- ◆ 中国、インドへの事業展開も調査中

3. 周辺事業の推進状況

アクセス・パブリッシング事業

東京カレンダー事業状況

印刷部数11万部 実売部数7万部前後で、
順調に推移

広告出向状況も順調

車: 日産 TOYOTA、HONDA、SUBARU
BMW 等

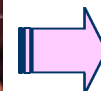
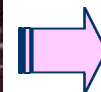
家電: 東芝 松下、SHARP、SANYO 等

その他: アサヒビール、アサヒ飲料、麒麟
ビール、サッポロビール 等

読者層

男女比 6:4

10%程度が年収1000万円以上の読者



東京カレンダーのコンテンツ提供
をきっかけとした、ACCESSブラウ
ザの搭載案件も増加
(コンテンツが欲しいので、ACCE
SSのブラウザを搭載するケース)

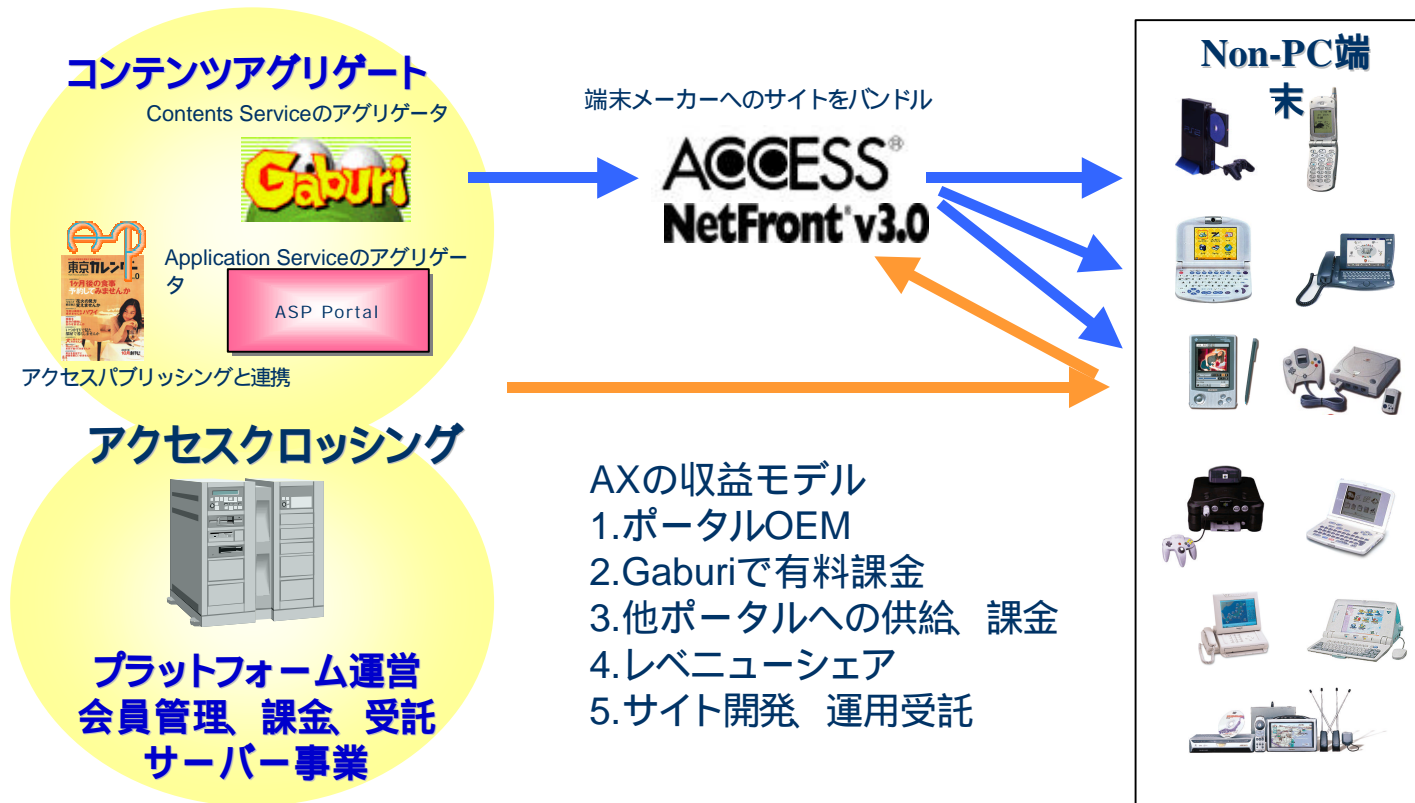
- 自動車メーカー向け
(カーナビ) 等

パブリッシング事業とACCESS本体事業との
シナジー効果が徐々に拡大中

ACCESS

アクセス・クロッシング事業

(株) アクセス・クロッシング

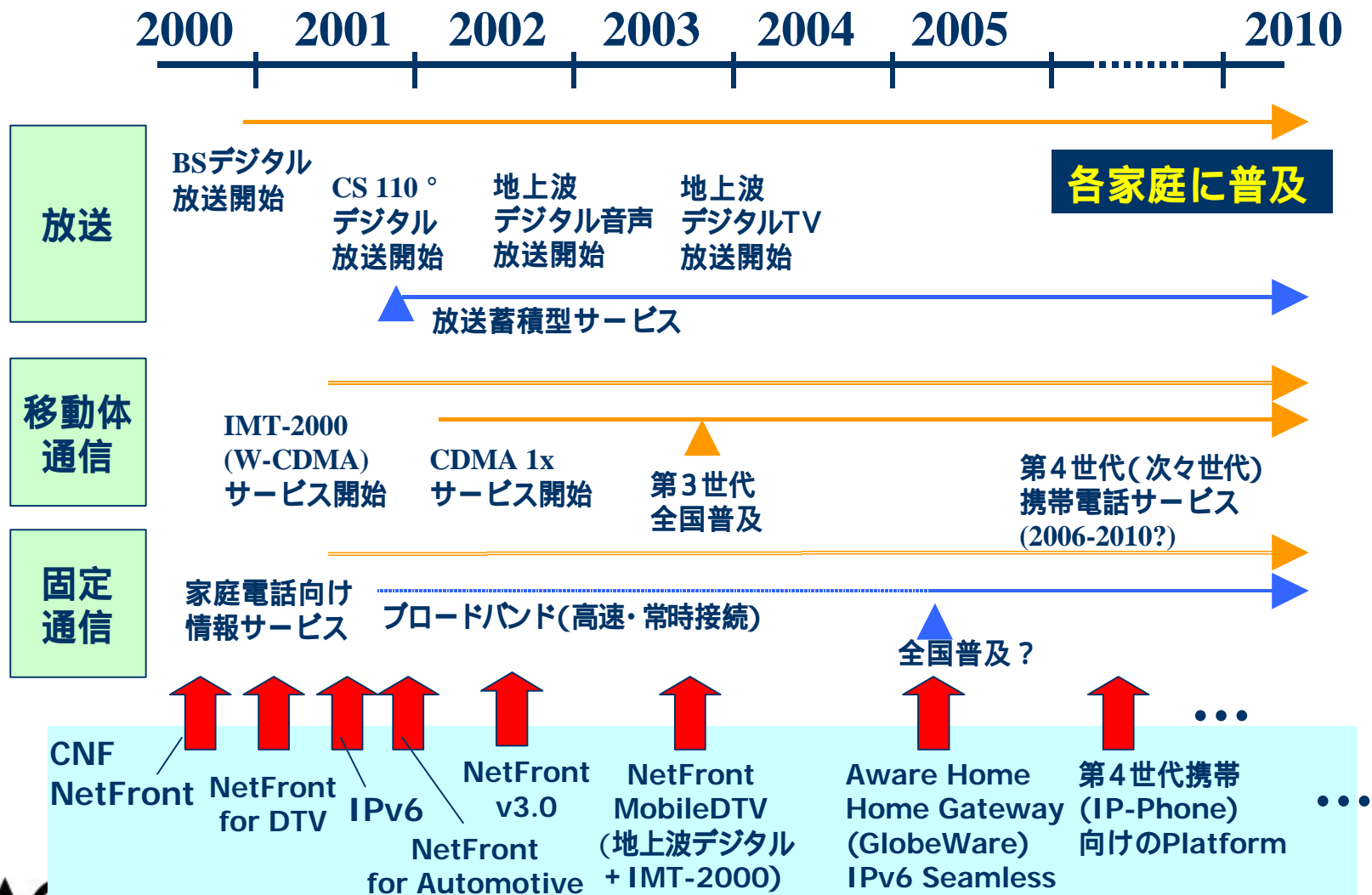


コンテンツ関連事業をACCESS本体から、(株)アクセス・クロッシングに統合
コンテンツ+アプリケーション事業を一括して推進

ACCESS

4. 今後の技術開発の方向性

インフラ進化に合わせたプロダクト開発



ACCESSが実現する近未来のイメージ

すべての機器がネットにつながる Connected Home & Mobileの実現

CSデジタル放送
BSデジタル放送(2000年~)
地上波デジタル放送(2003年~)



組み込み向け
JavaモジュールJV-Lite

PHS or WLL
TCP/IP
PPP

電力会社

電力会社のインフラ

自動検針
電力量制御
セキュリティサービス

あらゆる機器を
ネットワーク対応に!
NetFront
Compact NetFront
JV-Lite

ケーブルTV
ISDN, ADSL
アナログ電話
光ケーブル



200x年 数10億台

次世代携帯電話
IMT-2000



NetFront for ITS
(インターネット機能搭載)



携帯電話は家庭内
コントロールの
リモコン

ACCESS

NE Embedded Forum 2002(4月10日/11日)



NE Embedded Forum 2002

分散協業時代を迎えた
組み込みソフトウェア業界の明日を占う

主催：日経BP社 日経エレクトロニクス
協賛：Microsoft® マイクロソフト株式会社
ACCESS 株式会社ACCESS
ARM  MontaVista 

日時：2002年4月10日(水)、11日(木)
会場：新横浜プリンスホテル(横浜市港北区新横浜3-4)

お申し込み：
<http://ne.nikkeibp.co.jp/NE/emb2002/>

ACCESS

ACCESS参加プログラム

2002年4月10日(水)

<エグゼクティブ・セッション>

11:50~12:30 コピキタスネットが引き起こす情報革命
(株)ACCESS 副社長兼CTO 鎌田 富久

<ケータイを超えて:多機能化との戦いに臨む>

16:00~16:30

事業者のアプローチ

NTTドコモ移動機開発部長 永田清人氏

16:30~17:00

機器メーカーのアプローチ

NEC株式会社

17:00~17:45

パネル討論会「明日のソフトウェア開発を考える」

NTTドコモ(永田氏)、NEC、ACCESS(鎌田)

2002年4月11日(木)

13:20~15:00

情報家電を無線でつなぐ

(株)ACCESS 基盤開発本部 渡辺